

仁伏半島

摩周屈斜路トレイル（MKT）は仁伏半島を周るルートで、屈斜路湖東側の砂湖畔沿いから、頭上高くそびえ立つトドマツやカツラの木などを見ることができます。

トドマツと極寒

トドマツは、半島に生えている主な針葉樹です。この丈夫な木は、極寒にも耐えることができます。しかし、気温が摂氏マイナス 30 度まで下がる真冬には、寒さで木の幹に霜割れが入ることもあります。仁伏半島の一部のトドマツは、このような縦に長いひび割れにも耐えることができます。半島は地元のアイヌ語で「木が裂ける音」を意味する「ニブシ」と呼ばれていました。これは、樹皮が割れ避ける際に大きな音を立てることから名付けられたのかもしれません。

木とアイヌの資源

仁伏半島に生えている広葉樹には、オヒョウ、モンゴリナラ、シナノキ、そしてカエデが数種類あります。この辺りに住むアイヌの人々は、このような様々な植物を食物にしたり、これを使って道具や必需品を作ったりしていました。アイヌの人々は、カツラの木を伐採し、その幹を使って輸送や取引用の丸木舟を彫り、オヒョウの樹皮を柔らかく加工して丈夫な屋外で着られる衣服を編むための糸を紡ぎ、秋になるとヤマブドウの実を食用に採集しました。

野生生物の生息地

仁伏半島は、野鳥やエゾジカからムササビまで、地元の野生生物の棲みかとなっています。木の幹には、クマゲラの痕跡を見つけることができます。クマゲラはカラスほどの大きさで、木の表面に深く細長い穴を彫ります。アイヌの人々はクマゲラを「カムイ」（神）としてあがめ、舟を彫る鳥を意味する「チプタチカップ」と呼びました。アイヌの伝説によれば、アイヌの人々は「チプタチカップ」のまねをして丸木舟を作るようになりました。

湖の景観

仁伏半島を周るトレイルの大部分は森林の中を進むものですが、半島西端からは、中島方面の屈斜路湖と美幌峠の景色を見渡すことができます。